



Title	人乳癌における性ホルモン応答機構に関する研究
Author(s)	越智, 温夫
Citation	大阪大学, 1980, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/32901
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名・(本籍)	越智温夫
学位の種類	医学博士
学位記番号	第 5134 号
学位授与の日付	昭和 55 年 12 月 22 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当
学位論文題目	人乳癌における性ホルモン応答機構に関する研究
論文審査委員	(主査) 教授 松本 圭史 (副査) 教授 神前 五郎 教授 宮井 潔

論文内容の要旨

〔目的〕

性ホルモンの標的組織には、細胞内 receptor が存在し、それを介して性ホルモン作用が発揮されることが、近来の研究により明らかにされた。一方、人乳癌の 30% に、女性ホルモン除去を主目的とした内分泌療法（性腺剥出術等）が、有効なことも知られていた。

したがって、内分泌療法が無効な 70% の乳癌患者に、内分泌療法を施行する不合理を除く為に、乳癌内女性ホルモン受容体（ER）が、Jensen, McGuire 等により測定された。そして、欧米人乳癌に対する内分泌療法の有効率は、ER（-）の乳癌で 10%，ER（+）の乳癌で 50~60% であることが明らかにされた。日本人乳癌の発生率は欧米人の 1/5 と低く、またその予後も良好であることが知られている。内分泌療法と ER の関係は、したがって、この様に著明な差違のある日本人乳癌では、相違するかもしれない。又、ER の検索は、内分泌療法無効患者を選出するのにはよいが、有効患者を選出するのには不充分である。

以上のことから、320 例の日本人乳癌について、cytosol 中の ER、黄体ホルモン受容体（PgR）、その ER の DNA との結合能を検索した。

〔方法〕

手術剥出後の乳癌及び非去勢成熟 rat 子宮は、-80°C で保存した。ER の測定には、³H -estradiol-17 β (E₂) と unlabeled diethylstilbestrol, PgR の測定には、合成 progestin の ³H -R 5020 と unlabeled R 5020, androgen receptor (AR) の測定には、合成 androgen の ³H -R 1881 と unlabeled R 1881 を使用し、これを腫瘍組織から得た cytosol と incubation した。

遊離と結合型の分離は、dextran coated charcoal 法で行い、Scatchard plot で分析した。ER (+), PgR (+), AR (+) は、2~3 fmoles/mg cytosol protein 以上とした。又 cytosol 中の [³H] -E₂-ER complex の DNA 結合能の測定には、DNA cellulose を使用した。なお、内分泌療法が行われた乳癌で、腫瘍面積が50%以下に縮少し、且つ新しい病巣が出現しなかったものを有効例とした。

〔結 果〕

320例の乳癌において、ER の最大結合部位数は、0~825 fmoles/mg cytosol protein で、K_d は 0.2~6.2×10⁻¹⁰ M で、ER (+) は 52% に認められた。22例の ER (+) の乳癌中、内分泌療法が有効なものは 50% で、24例の ER (-) の場合は 8% であった。

ER (+) でも無効例である残り 50% の検出法として、PgR の測定は理論的に有用と思われる。何故なら、女性ホルモン標的組織では、PgR の合成は estrogen の作用で著増するからである。20例の ER (+) で PgR も (+) の乳癌の内分泌療法有効例は 65% であり、ER, PgR の測定は、ER 単独測定に比べてやや有用と思われた。しかし ER, AR の測定は有用ではなかった。

次に E₂-ER complex の DNA 結合能を調べたところ、55例の ER (+) の腫瘍中 4 例に DNA 結合能が認められなかった。これらの cytosol を rat 子宮 cytosol の E₂-ER complex に加えると、その DNA 結合能は著明に抑制された。この反応は 0°C でもおこるが、25°C ではより加速された。そこで 55 例の乳癌について、その ER の DNA 結合能に及ぼす加温の影響をみると、1/3 が抑制されていた。次に内分泌療法との関係を調べてみると、内分泌療法に反応しない ER (+) の 6 例中 5 例は、その ER の DNA 結合能が無いか、又は加温により ER の DNA との結合能が抑制されていた。

〔総 括〕

日本人乳癌でも欧米人乳癌と同様に内分泌療法有効乳癌は、ER (+) の乳癌で 50%, ER (-) の乳癌で 8% であった。ER, PgR ともに (+) の腫瘍は、65% が内分泌療法に反応する。又、乳癌 cytosol 中には、ER の DNA 結合能を破壊する因子が存在し、この因子を含む腫瘍は、内分泌療法に反応し難いと思われる。したがって、ER の DNA 結合能の検索も、内分泌療法有効乳癌の選出に有用である。

論 文 の 審 査 結 果 の 要 旨

ヒト乳癌に対する内分泌療法の効果は、女性ホルモン受容体 (ER) (-) の癌の 90% に無効で、(+) の癌の 50% に有効である。本論文では、更に黄体ホルモン受容体 (PgR) と ER の DNA との結合能を測定し、ER (+), PgR (+), DNA 結合能 (+) の癌の有効率が 70% であることが認められた。本論文は、臨床的にも価値あるものと認める。